



# 2013年度 観光カリスマ講座



会 場：フォルテ・ワジマ 4階 イベントホール  
〒640-8033 和歌山市本町2-1  
和歌山東急イン 2階 会議室  
〒640-8232 和歌山市南汀丁18

定 員：社会人 80名、観光学部学生 70名

講習料：無料



<http://www.wakayama-u.ac.jp>

【観光学部教務係】 TEL 073-457-8542 FAX 073-457-8540



## ■主催

国立大学法人  
和歌山大学観光学部  
和歌山県

## ■後援

公益社団法人和歌山県観光連盟  
和島興産株式会社



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。



# 観光カリスマ講座

本講座は、各地で活躍する「観光カリスマ」や成功モデルと評価されている観光地のキーパーソンを招聘します。観光カリスマのユニークな発想やリーダーシップを発揮しての事業の推進やコンセンサスの形成方法等の実践事例を拝聴するなかで、和歌山県の観光振興と地域再生の方向性を探る上で参考となる「生きた交流の場」とすることをめざします。

## 第1回 観光立国の推進と地域活性化

10月10日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 \*休憩10分を含む 会場／フォルテ・ワジマ4階 イベントホール

観光庁観光地域振興部長 **吉田 雅彦**

観光は、国の成長戦略の柱の一つであり、外国人訪問客の増加や観光産業の発展を進めることにより、ジャパンブランドの向上によるソフトパワーの強化、少子高齢化の中で、交流人口の増大を通じた経済及び地域の活性化が期待されている。今年6月には成長戦略の一環として観光立国実現に向けたアクション・プログラムが発表された。今年には、外国人訪問客1000万人の大台を目指し、前半で約20%の増加となっている。

観光地域活性化の基本は、「住んでよし、訪れてよし」の観光まちづくりに向けた地域磨きである。地域の産学官の連携、観光地域のマーケティング、広域の体制作りが重要であり、観光キーパーソン集会の手法を活用した地域の課題解決を提唱する。

## 第2回 森で経済を作る ～農山村地域と都市の企業との新たな協働のカタチ～

10月24日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 \*休憩10分を含む 会場／フォルテ・ワジマ4階 イベントホール

社団法人国土緑化推進機構 政策企画部 **木俣 知大**

近年、地球温暖化防止や生物多様性保全等の観点に加えて、環境ビジネスの創出の観点から、農山村地域が有する成熟した森林資源への注目が高まりをみせています。こうした中、社会貢献・CSRとしてはじまった企業と農山村・森林との関わりを、企業の有するマーケティングや事業開発等の多様な経営資源を活用することで、新たなビジネス創出に発展させる取組が広がっています。

そこで、森づくり、木づかい、都市山村交流から技術開発、資金調達まで、農山村地域と都市の企業等の協働を通じた地域活性化の新しいカタチについて、全国の多様な企業事例に学ぶヒントについてご紹介します。

## 第3回 日本版DMO概論 ～ Destination Marketing & Management ～

11月21日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 \*休憩10分を含む 会場／和歌山東急イン2階 会議室

NPO法人グローバルキャンパス理事長 **大社 充**

バブル崩壊後、観光に携わる多くの人たちの懸命な取り組みにもかかわらず、観光客数・観光消費額は、一部の地域を除いて回復してない。また、「着地型観光」の名の下に、多くの地域では体験メニューとよばれる地域コンテンツを揃えてきたが、それらが着実に人気を集めて来訪者を増やし、地域経済の活性化に寄与しているというケースも決して多くない。地域の人びとの努力が必ずしも成果に結びついていない要因はどこにあるのだろうか。

来訪者を受け入れる地域では、旅行会社の受け皿として培われてきた旧来型の受入体制から、激変するマーケットに柔軟かつ適切に対応できる受入体制へと転換を図ることが求められている。「勤と経験と思い入れ」による観光振興から、「客観的なデータ」にもとづく観光振興へ、そして「お国自慢」から顧客志向へ。科学的なアプローチによる観光地域振興への転換を図るための基本的な考え方とその移行プロセスについて解説する。

## 第4回 ～高校生レストランの仕掛け人が語る～ 地域の宝を探し出せ！

12月5日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 \*休憩10分を含む 会場／フォルテ・ワジマ4階 イベントホール

三重県多気町まちの宝創造特命監 **岸川 政之**

私の住む三重県多気町は、未来の大人である“高校生や大学生”と一緒に地域資源を活用した取組を進めています。例えば、高校生が運営するレストラン「まごの店」や高校生がプロデュースするハンドジェルなどの化粧品シリーズが現在話題を呼んでいます。

また、「まごの店」のOBたちが運営する惣菜とお弁当と食事の店(株)相可フードネット「せんぱいの店」は、地域おこしの新しい可能性を提示しています。

私たちは、オンリーワンやナンバーワンを目指すのではなく、地域のモデルになりたいと考えています。そして、皆さんに私達の取り組みの中から良いところを共有していただき、たくさんの方と繋がっていただければ幸いです。

## 第5回 インバウンド観光新戦略と日本酒の魅力を世界へ

1月23日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 \*休憩10分を含む 会場／フォルテ・ワジマ4階 イベントホール

(株)リンカイ 代表取締役社長 **李 容淑**

インバウンド観光は国家ブランド向上と地域経済活性化の重要産業として台頭し、その価値と意味が追及される。最近観光トレンドは社会の変化と旅行者の要求により進化している。さらにスマートフォンの技術拡大のために新しい方式の旅行サービスが普及している。

従って情報化時代のSNSの拡散は旅行業界に多大な影響を及ぼしている。旅行客は旅行会社が提供する情報や紹介より顔も知らない人の情報をさらに好ましい信頼する。最近旅行経験談や写真、映像などによるSNSの情報はリピーターを生み出す影響力が強い媒体になっている。

多様な日本の文化の中にも、外国人は特に“もてなしの文化、匠の精神”に憧れを抱く。しかし、日本人も自分たちの文化や長年続いた匠精神を知らずに過ごしていることが多い。日本酒は日本の文化その物である。日本酒を世界化するMarketing状況を語る。

## 第6回 農商工連携とコミュニティビジネス

2月20日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 \*休憩10分を含む 会場／フォルテ・ワジマ4階 イベントホール

農業法人(株)秋津野 専務取締役 **木村 則夫**

TPP交渉に揺れ動く国内の農業が交渉の障壁かのように伝えられ、自信を失う農村の姿が露わになっています。ただ、私たちの地域では、大きな時代時代の節目に於いて、地域の未来にかけた判断が行われ、住民が行動を起こしてきました。平成に入る頃からの地域コミュニティづくり。平成11年に誕生した秋津野直売所『きてら』、そして平成20年の都市と農村の交流施設『秋津野ガルデン』も、地元住民が計画をし、そして出資、運営までもが行われている。変哲もない、みかんづくりの農村に、年間12万人以上の方が訪れ、田辺市周辺経済にも、年間10億円の経済波及効果(和歌山大学観光学部調べ)を生み出している。コミュニティビジネスとしての国内での認知度も高まり、多くの人々が秋津野を学びだしています。

## 第7回 パネルディスカッション 地域振興と観光産業

3月6日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 \*休憩10分を含む 会場／フォルテ・ワジマ4階 イベントホール

和歌山大学観光学部長 **山田 良治** 和歌山大学観光学部副学部長 **廣岡 裕一** (コーディネーター) 和歌山大学観光学部副学部長 **藤田 武弘**

この観光カリスマ講座を締めくくるパネルディスカッションです。今年度の観光カリスマ講座は「食」と「農」との関係から地域再生を研究する藤田副学部長、観光産業とその法政策を研究する廣岡副学部長が担当しましたが、経済学が専門で、その立場から地域・観光・景観を研究する山田学部長と今回それぞれの領域を中心に担当した両副学部長が今年度の観光カリスマ講座を振り返りディスカッションして、総括いたします。